

阿智村辺地対策総合整備計画
(令和4年3月変更)

平成30年度～令和4年度

令和4年3月
阿智村

総 合 整 備 計 画 書

長野県下伊那郡阿智村 ほんたにそのはら 本谷園原 辺地
(辺地の人口 284人 面積 3.7 k m²)

1 辺地の概要

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 辺地を代表する町又は字の名称 | 濃間・中央・戸沢・園原・横川 |
| (2) 地域の中心の位置 | 阿智村駒2352-50 |
| (3) 辺地度点数 | 106点 |

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、従来より農林業を育んできた農業地域のほか、古代東山道をはじめ史跡が多く残る「園原の里」の史跡とスキー場を合わせた観光地域として成り立っています。

整備計画に載せた村道及び林道については、この地域の生活路線として欠くことの出来ない重要な路線となっている一方で、観光シーズンには観光道路としての位置づけを持った道路としての機能も有しています。道路改良を行うことにより他の地域との生活基盤の格差を是正し、辺地住民の交通利便性を向上する計画です。また、地区内の橋りょう・トンネルについては、花桃祭りや星空ナイトツアーなど観光バスの利用頻度も多い中で老朽化が進んでおり、点検の結果早期に対策を講ずる必要があると判定されています。林道を通り登山に行く人も多い為、橋りょう・トンネルの修繕を行うことにより住民及び来村者の交通の安全を確保します。

本村では森林の面積が全体の92%を占めており、本辺地も古くから林業に取り組んでいる地域です。林道を整備することにより、木材を安全で容易に搬出できるようになり、搬出量の増加や作業時間の短縮などが期待できます。

本辺地の児童は通学にスクールバスを利用していますが、そのバスが村の巡回バスも兼ねており、一部児童がバスの時間に間に合わないときには村職員が臨時で送迎しています。専用のスクールバスを配備することにより、通学の不便さが解消されるだけでなく、安全に登下校できることが期待されます。

平成27年3月に策定した阿智村子ども・子育て支援事業計画に基づき、本辺地にも智里西保育園がありますが、老朽化が進んでおり今後も子供たちが安全に保育園生活を送るためにも改修が必要となります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から令和4年度までの5年間

(単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良4-326号線 (戸沢)	阿智村	27,500		27,500	27,500
村道改良1-14号線及び4-324号線 (戸沢)		11,000		11,000	11,000
村道改良2-17号線 (中央)		64,000	30,500	33,500	33,500
智里西保育園改築工事		121,200		121,200	121,200
小学校スクールバス購入		8,000		8,000	7,000
橋りょう修繕 本谷川橋		100,000	63,200	36,800	36,800
橋りょう修繕 割石大橋		70,000	44,200	25,800	25,800
林道改良 弓の又線		30,000	20,000	30,000	30,000
橋りょう修繕 弓の又2号橋		7,000	1,900	5,100	5,100
橋りょう修繕 大谷霧ヶ原1号橋		7,000	1,900	5,100	5,100
橋りょう修繕 大谷霧ヶ原2号橋		8,400	2,500	5,900	5,900
トンネル修繕 大谷霧ヶ原1号トンネル		11,000	4,500	6,500	6,500
橋りょう修繕 神橋		12,000	7,500	4,500	4,500
橋りょう修繕 南沢橋		30,000	19,000	11,000	11,000
村道改良3-301号線 (濃間)		40,000		40,000	40,000
合 計		507,100	175,200	331,900	330,900
		587,100	195,200	391,900	390,900

総合整備計画書

長野県下伊那郡阿智村 ^{なみあいとうぶ}浪合東部 辺地
(辺地の人口 81人 面積 2.1 k m²)

1 辺地の概要

- (1) 辺地を代表する町又は字の名称 阿智村 上半堀・下半堀
- (2) 地域の中心の位置 阿智村浪合793
- (3) 辺地度点数 150点

2 公共的施設の整備を必要とする事情

本辺地は、従来より農林業を育んできた農業地域になります。気候と立地条件に恵まれないことから衰退するとともに、若者の流出が著しく年々過疎化が進んでいます。

整備計画上の村道及び生活道路も兼ねている林道極楽峠線については幅員が狭くカーブも多いため、住民の日常生活に多大な支障をきたしています。道路の改良を行うことにより地域住民の日常の利便性や安全性を確保し、辺地住民の交通利便性の向上が期待されます。生活環境とあわせて、特産品の搬出路の確保も図られるため、主産業である農業の振興につながることや観光道路として集客性を高められることも期待されます。

本辺地を含む浪合地区は村の中でも標高が高く、積雪量も多い地域です。他の地区に比べ凍結防止散布車の稼働期間も長く、老朽化が進んでいます。凍結防止剤散布車を更新することにより、冬の路面凍結を防ぎ、安全安心に通行ができるようになります。

3 公共的施設の整備計画

平成30年度から令和4年度までの5年間 (単位 千円)

施設名	事業主体	事業費	財源内訳		一般財源のうち 辺地対策事業債の 予定額
			特定財源	一般財源	
村道改良2-28号線 (一の萱線)	阿智村	5,000 <u>20,000</u>		5,000 <u>20,000</u>	5,000 <u>20,000</u>
村道改良3-510号線 (平五郎)		5,000		5,000	5,000
凍結防止散布車更新		浪合中央部辺地 へ一括掲載			
林道改良極楽峠線		<u>20,000</u>		<u>20,000</u>	<u>20,000</u>
合計			10,000 <u>45,000</u>		10,000 <u>45,000</u>